

平田京子 研究室

専門領域：住宅の安全性・構造安全・防災

平田研究室は、住宅の安全性、防災、住まいづくり、性能設計、リスクとリスクコミュニケーション、住情報、住教育や地球環境保全、防災に強いコミュニティの在り方などを中心に研究しています。現在行っている卒業研究のテーマとその簡単な概要を、右のページに示しました。学生ひとりひとりがテーマについて深く思考し、卒論をきっかけにしてプロジェクトをまとめていくことで、「ものごとを見つめ、現状を整理し、どのように解決策を考えていくか、またその成果をどのように社会に対して説明するか」というスキルを養うことを重視しています。

春には、昨年の卒論で作成した高校家庭科用環境教材「木の住まい教育」の教材を使用した授業を行いました。高校生がわいわいと実習した後、その実習結果を解説していきましました。高校生は耐震構造にはあまり興味がなく、逆にアニメやゲームに出てくる世界の住まいに沸いていました。

秋には目白祭で研究室企画を行い、文京区町会の方々によるワークショップ、減災カフェ、研究展示、防災フリーペーパーのヒアリング調査などを行い、研究室が一丸となって準備した結果か、多くの方が来てくださりました。減災カフェでくつろぎながら防災絵本を熱心に読む親子や、家族で協力して日々の生活で環境を守り続けていくことを目的に開発したCO₂削減プログラムをパソコンで見るカップルの姿がありました。ワークショップでは非常食の試食が好評でした。防災を少しは身近に感じてもらうことができたのでは、と考えています。



目白祭 減災カフェ「OKASHIMO」



高校での授業



ゼミ宿 (箱根)



2009年度 卒業論文テーマ

防災

防災コミュニティにつなげるための地域社会の人的交流のあり方と課題
—文京区町会にみる交流状況と防災訓練の現状—
大震災時に頼りになるのは、近隣住民の協力と助け合い(共助)。災害時に様々な世代の近隣住民が共助体制をとれるようにするための、日頃の交流状況と防災面における課題を明らかにする研究です。



目白祭でのワークショップの様

大地震に備えた避難所運営に関する市民の意識啓発ツールの開発と実践

災害を生き延びるためにはあらかじめイメージしておくことが大切です。普段の生活からはなかなか想像できない避難所生活について楽しく学べるゲームを開発しました。



目白祭での実証実験の様

豪雨に関する防災情報の提供のあり方について

—防災情報コンテンツ作成を通しての検証—
豪雨に関する防災について、若い世代の人にも読んでもらえるように、フリーペーパーの手法を活用した冊子を作成しました。防災情報がもっと市民に身近になることを目指しています。



住まいづくり支援 戸建て住宅新築時における依頼先探し支援事業のあり方

住宅購入は、私たちにとって一生に一度の最大の買い物です。成否の要となる自分のニーズにぴったり合う建築業者選びを、サポートしてくれるサービスの現状を調査しました。



国際協力

日本が行っている防災分野における国際協力の動向 —スマトラ沖地震津波でのインドネシアに対する対応からみる特徴—

2004年12月26日に発生したスマトラ沖地震津波で、日本がどのような国際協力を行っていたのかを調べています。内容は防災に限定しました。防災分野の支援内容の実態を把握し動向を考察することが目的です。



防犯

集合住宅の住民間の人付き合いによる防犯意識 —日常的交流と防犯設備に対する意識調査—

集合住宅に住む人達に、「人付き合い」と「人付き合いと設備」などの視点から防犯に関するアンケートを取り、住民同士の人付き合いの現状を調査しました。



環境教育

家族の環境配慮行動の促進・継続を目的とした生活行動チェックツールの開発

エコアクションを楽しく学び、継続に繋げるツールをパソコンで開発しました。1週間、1日に行ったエコアクションをチェックして得点を稼ぎ、家族で協力して目標達成するツールです。

